

## 令和6年度 第2回教育課程編成委員会 要旨

日時：令和6年11月18日(月)13:00～15:00  
場所：国際園芸アカデミー 研修室BC (オンライン)

### 【あいさつ (今西学長)】

今年度は一年生21人を新入生として迎えた。また、海外視察研修も復活することができ、シンガポールに3泊5日間という短い期間だが、いい刺激を受けて学生は帰ってきたと思っている。

そして先週は、開学20周年ということで、式典を開催させていただいた。20年間にわたって皆様方にご支援いただいたおかげで、20年という節目の年を迎えたと思っている。これも合わせてお礼を申し上げたい。

最近の状況ですが、来年度の入学者の募集が始まっている。今年の一年生は、20人の定員に対して26人の出願があり、1.3倍という状況であった。今年は推薦入試が28名、一般入試に9名、合計37名の出願があり大変嬉しい限り。ただ、定員があるため、不合格にせざるを得ない人数が出てしまい、非常に心苦しく思っているところ。

そんな悩みを抱えなければならないほど、この学校も認知度が上がっており、教育の中身も充実してきたということを認識していただいている証ではないかと思う。

ぜひ皆様方から忌憚のないご意見・ご指導を受け、次年度以降も教育カリキュラムの内容を濃いものにしていきたいと思う。引き続きよろしくお願ひしたい。

### 【委員会の成立について (井戸副学長)】

委員9名中8名の出席をいただいております、過半数の出席であるため、教育課程編成委員会規程第8条第1項の規定により、本日の教育課程編成委員会が成立。

### 【検討事項(1)：令和6年度前期カリキュラムの実施状況について】

(資料1、資料2-1, 2-2, 2-3により説明)

#### 日比委員

・土壌の関係にあまり詳しくない若い子が多いなという気がしている。土壌の性質等について、どのぐらい時間をかけて教えているのか。

#### 臼田委員

・「栽培・生産論」は90分の授業を15回実施しているが、その中で土壌について4回実施している。地面の土壌から鉢植えの培養土、それから土の物理性・化学性・生物性という観点から解説をしていく形で4回説明をしている。

#### 日比委員

・2年生授業で、緑地の計画、ランドスケープ・空間の計画に関する授業がないのではないかと。今までの公共事業では図面が与えられて、それを制作していたが、これからは提案型のスキルが求められており、提案型のスキルが上がるような授業を検討していただければありがたいと思う。

#### 今西委員長

・2年後期に「公園緑化概論」という授業を実施しており、その授業でPark-PFIなど大きな計画の話をしている。学生には難しいので、事例をみんなに見てもらおうということで紹介している。

#### 山田委員

- ・学生の評価が昨年に比べてかなり良くなっている。先生方が学生のコメントに真摯に回答し、対応されている結果かと思う。引き続き維持していただければと思う。

#### 【検討事項（2）： ぎふワールド・ローズガーデンにおける授業開講について】

- （・令和6年度ぎふWRGを活用した授業実績（前期）：資料3-1、3-2、  
・分野別授業の実施状況：資料4-1、4-2、4-3、4-4により説明）

#### 宮田委員

- ・有識者会議の提案を踏まえて、ぎふワールド・ローズガーデン内の花トピアを改修後、本年度から利用開始ということで、有効活用を進めていただいている。今報告いただいたように、授業で園内のバラを観察するなど、植物を見る視点での体験ができたと思う。また、花トピアの実践的な展示ということで人に見られる作品を制作する意識を持たせることができたという効果もある。
- ・効果を確認できた一方、距離があり往復1時間かかるという時間のロスもある。メリットとデメリットのバランスをはかりながら、より今後の活用・利用について検討いただけるとありがたい。

#### 宇野委員

- ・ぎふワールド・ローズガーデン内で販売するという事は学生にとって貴重な体験。また、ぎふワールド・ローズガーデンのフィールドで病害虫の勉強ができるということはすごいことだと思う。
- ・生産者の育成もお願いしたい。また、求めるものを強いて言えば、育種の実践。新しいオリジナリティのあるバラ育種などやっていただければありがたい。育種について、学生に学んでもらえるといい。

#### 白田委員

- ・オリジナル品種を増やしていくということは、県としても重要な事。私どもとしても協力できることはしていきたい。
- ・今年度、授業ではぎふワールド・ローズガーデンでバラの枝変わりを見つけようというような内容も行った。

#### 宇野委員

- ・生産の現場は、人件費、燃料費など経費が高くなり、厳しい。なかなか人を雇えない現状もある。
- ・新しい発想をしていかないと生き残れないと感じている。利益を出すため、環境制御などの勉強もしている。

#### 大西委員

- ・生産者として、先ほどの意見に同感。また、それぞれでオリジナル品種を作っていかなければならないという状況がある。
- ・授業評価アンケートについて、評価が上がっているのは素晴らしいこと。
- ・先生方の授業満足度評価を知りたいと思った。もう少し、ここまで教えたいと先生側は思っているが、学生側は十分満足、とか、先生側が手ごたえないと思っても満足度高かったりということがあるのか。学生側の意見だけでなく、先生側の手ごたえとマッチしているのか、確認できる一覧があると評価しやすいと思う。

#### 國井委員

- ・外部で作品をみってもらうという点は、すごく良いと思う。2年生の作品を展示しているとき、1年生は見に行っているのか。今までだと1年生は2年生の作品を見て、自分たちは次にこういうこ

とをやるんだなと思っていた。

#### 林准教授

- ・見に行っていない。授業として見に行くことはないが、「花修景実習」の授業で花トピアへ行った時などに見ているのではないかと思う。
- ・来年度自分たちが何をやるのか、わからないと思うので、花き装飾コースに入る学生には、スライドで説明していこうと思う。

#### 國井委員

- ・人にみてもらうということは、今までにはないことなので、良いと思う。

#### 日比委員

- ・昨今の異常気象で、高温で外へ出るなどと言われるが、我々は外で作業をしており、健康管理が非常に課題である。学生さんをよくみてあげて、熱中症に注意していただきたい。
- ・今、実習で花壇の植え替えをやられているが、例えば、伝統技能、石組みや石張りなどの授業を東ゲートの付近で行ってはどうか。東ゲート付近は人の出入りが少なく、展示をしてもあまり見てもらえないという課題もあったが、公園の指定管理者と相談して、日本庭園的なデザインの庭を何年かかけて作っていったらどうか。古い造園技術に触れる場所があってもよいのではないか。

#### 新井准教授

- ・熱中症対策については、いい対策があれば教えていただきたい。こまめに休憩とりながらやっていくしかないかと考えている。
- ・伝統的な技法については、「造園施工・管理実習」という他の科目で取り組んでいるが、作っては壊してしまうのがほとんど。先ほど提案いただいたのは、全体像があって、最終的にずっと残っていくもので素晴らしい意見だと思う。
- ・現在は、卒業制作の実習授業を主体として、「里山」を統一テーマに、その年その年の学年で毎年計画・設計して作っている。作っているエリアも手狭になってきているので、今いただいた意見について、指定管理者と一緒に検討を進めていけたらと思う。

#### 山田委員

- ・資料3-1で、各コースの課題というところが表にまとめられており、花き生産コースでは、事前の下調べに時間がかかるとある。これは、学生側か、教員側のことか、どちらか。
- ・全体の課題として、教育上の時間のロスが問題になっている。学生側としてやれることは事前にやっておいて、いかにこの現場で効率的に効果的に時間を使うかということが大事だと思う。

#### 臼田委員

- ・この下調べというのは、教員側の時間の問題。今ご指摘いただいたように、当然学生が事前に下調べをして予備知識を持った上で行くということは、より効果的となり重要な事であり、参考にさせていただく。

#### 山田委員

- ・教員側が準備に時間がかかるという課題ということになると、外部の現場で実施するメリットが課題を上回るのか、そのあたりを工夫しながら、準備もいかに工夫しながらやるかということかと思う。

【検討事項（2）： ぎふワールド・ローズガーデンにおける授業開講について】  
（・令和7年度ぎふWRGを活用した授業計画：資料5により説明）

### 今西委員長

- ・学生の移動の課題や、授業の準備を各教員が頑張ってくれている。予算をかけて整備いただいたから、活用しないといけないが、ある程度のところで限界はあるだろうと思っている。
- ・アカデミー再整備計画の時、学校丸ごとぎふワールド・ローズガーデンへ行ってはどうかという話もしたが、部分的に機能を持ち出すという形になった。
- ・花トピアという施設は、アカデミー専用の施設ではなく、公園施設であり、公園利用者の方、生産者の方を含め皆さん使っていただける施設である。この施設をどんどん使ってもらう仕掛けを公園側で計画すべきだとお願いしているところである。

### 【意見交換：20年の歩みを踏まえて、これからのアカデミーに期待すること】

(資料6により説明)

### 日比委員

- ・卒業生で当社に入社いただいている方もいる。学生さんのレベルが上がってきている。
- ・今度4月に入社いただく学生さんが一人おり、先般面接をしたが、試験成績や面接の内容も良かった。
- ・先生との距離が近いというところも良いと思う。2年という短い期間だが、専門知識の習得はもちろん、人間的な成長も重視し、これからも社会の戦力になる学生さんを育てていただきたい。
- ・活躍していただくためには、実習時間を増やすことも必要で、実践的な内容を増やすことも重要。

### 小笠原委員からの意見紹介

- ・21世紀の日本の花産業、花文化を担う若者に花のおもしろさを教えていただきたいと思います。多くの若者たちが貴校から羽ばたかれことを期待します。

### 宇野委員

- ・学生のレベルが上がっているということは、コミュニケーション能力が高くなってきている。コミュニケーションができるということはすごく大切。
- ・若者は、お金より働く環境を重視している。働く楽しさを求めていると思うので、学生さんに夢を与えられるような働く場を提供できたらと考える。
- ・今、時代が変わってきており、フェスやイベントでの路面販売、移動販売で売り上げを上げている例があり、可能性がある時代。
- ・また上級マイスター科ができるとしたら、学生のうちからベンチャーで立ち上げてもらうというのも素晴らしいことだと思う。
- ・2年間という短い期間だが、学生さんが夢を持てるような教育をお願いしたい。
- ・外資系企業などから良い所を学び、国際的に通用する若者を増やしていただきたい。
- ・今の日本は職人がいなくなっているということも踏まえ、日本の若者に日本のためになることをしていただきたい。
- ・アカデミーから羽ばたいた学生が立派になれることを願う。

### 大西委員

- ・いい学生さんがおられるとのことですので、社員として学生さんに来ていただきたいと思っている。

#### 國井委員

- ・過去にあいさつすらできない学生もいた。ぎふワールド・ローズガーデンを活用した実習などで来場者とコミュニケーションがとれるということ、学校だけにとどまらず、学校から出て外部の方とコミュニケーションをとるということは、やはりいいことだと思う。
- ・メリットとデメリット両方あることを聞かせてもらい、実感した。

#### 山田委員

- ・20年間多くの人材を輩出している。
- ・学生の授業に対する価値の見出し方について、実際働き始めて、数年後にやっとあの時こういうことを学んできたのかということが理解できる、見えてくることがあると思う。
- ・卒業生とどうつながっていくのが大切。自分たちが今業界で働いていて、あの時学んだことが今役に立っているということ、現役の学生に示してあげる、そういう仕組みが何かあると良い。

#### 今西委員長

- ・卒業生に、卒業1年後と3年後にアンケートをとり、卒業生の動き、就職先の状況を把握しながら次の学生に伝えていくというようなこともしている。

#### 宮田委員

- ・20年で400名ほどの卒業生を輩出し、教育活動の中身も充実してきていると感じる。今後も魅力ある授業内容に発展いただきたい。
- ・国際交流について、海外研修も再開し、外国の機関とも連携されている。国際的に活躍できる人材を輩出するため、さらに発展いただくことを期待している。
- ・岐阜県立ということで、地域企業とも連携を密にして、地域企業へ就職する人材輩出にも期待している。
- ・花業界は雇用の場を作るのも厳しいという声もあるが、花き振興につながるような施策に取り組み、県内の就職先が広がるよう、行政として努めていきたい。

#### 古澤顧問

- ・これまで20年積み上げたものが徐々に成果として上がっている。
- ・学生も岐阜県外からも集まるようになってきている。
- ・世の役に立つためには、教育課程をいかに充実を図るかということ、そして社会的認知度を上げていくことが重要。
- ・今年度から、ぎふワールド・ローズガーデンをサテライト施設として使うことができるようになり、認知度という点でも、県民の皆様にも周知させていただける機会を設けさせていただいたところ。
- ・来年度からもぎふワールド・ローズガーデンの活用を工夫し、弱い部分を補い、強い部分を高め、いい学生を輩出すべく、教職員一同努力していく。

#### 今西委員長

- ・ありがとうございました。今後もアカデミーの飛躍をみていただけるように、改革を進めていく。

#### 【閉会（井戸副学長）】

委員の皆様には貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。いただいたご意見は今後の授業やアカデミーの取り組みに活かしてまいります。

以上で、令和6年度第2回教育課程編成委員会を閉会とする。